

入会のご案内

彦根景観フォーラムは、まちづくりを楽しむNPOです。
大学教員・建築家・会社員・商店主・公務員などが集まり、
それぞれの知恵と力を合わせて活動しています。

私たちの活動にご支援・ご協力いただける方々のご入会を
お待ちしております。

【年会費】 正会員 6,000 円 フレンド会員 1,000 円

賛助会員 一口 10,000 円 学生会員 0 円

【会費振込先】

滋賀中央信用金庫 彦根営業部 普通 0606419

特定非営利活動法人 彦根景観フォーラム

理事長 濱崎 一志 (はまざきかずし)

入 会 申 込 書

ふりがな
お名前

ご住所
〒

電話番号

携帯電話

E-mail

会員種別

☐ 正会員 ☐ 賛助会員()口

☐ フレンド会員 ☐ 学生会員

NPO法人

彦根景観フォーラムとは

◆団体の概要

団体名 特定非営利活動法人 彦根景観フォーラム

代表者 理 事 長 濱 崎 一 志

所在地 〒522-0065

滋賀県彦根市池州町 15 番 32 号

団体設立 平成 14 年 (2002 年) 8 月

法人設立 平成 16 年 (2004 年) 8 月

会員数 名誉会員 3 名 正会員 19 名

フレンド会員 21 名 学生会員 0 名

賛助会員 2 団体 (2025.8.1 現在)

◆お問い合わせ

彦根景観フォーラム事務局

TEL 080-1416-5968

Mail hikonekeikan@hotmail.com

Blog <http://hikone-keikan.seesaa.net>

URL <http://hikone-bunkaisan.net>

URL <https://asgr-home.studio.site>

彦根景観フォーラムブログ

🔍 検索 🖱



特定非営利活動法人

彦根景観フォーラム

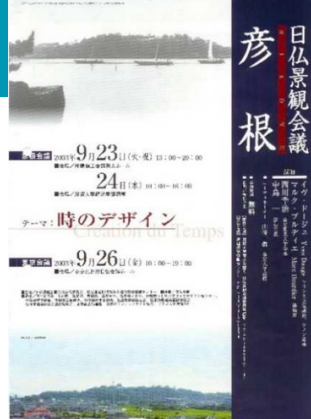


多賀さとの宿 一圓屋敷 Japanesque Villa Ichien

URL <https://www.ichienyashiki.jp>

NPO法人彦根景観見フォーラム 20年のあゆみ (2004年～2024年)

彦根
景観
見



日仏景観会議・彦根 (2003)



彦根景観シンポジウム (2015)

発端は日仏景観会議

日仏景観会議は、景観に対する意識の向上・優れた景観の形成を目的に、日本と仏が国際的視野にたつて議論するものです。滋賀大に奉職して間もない2002年の夏、会議に協力していた山崎に彦根主催の要請がありました。

彦根の歴史を知り景観を議論する良い機会だと思う一方、彦根に来たばかりで態勢づくりに不安がありました。滋賀大・県立大の学長、知事・市長に相談したところ、バックアップするということでしたので、意を決して、両大学・県・彦根市・商工会議所・観光協会・建築士会等有志で実行委員会を組織し準備を進めました。

テーマは「時のデザイン」。2003年9月23日・24日の両日会議を開きました。初日は彦根のマチ形成史概論とまち歩き、二日目は仏の景観形成の実状解説と参加者間での意見交換でした。議論を経て、「未来に向けた彦根宣言」を発表しました。

宣言の最後は「市民・行政・専門家・企業等による持続的な実行組織の設立」とありました。実行しなければ宣言を出す意味はありません。この会議の実行委員会が永続組織に移行して実践すべしとなり、これが会議参加者の集約的意志となったのです。

早速、法人認証を得て、2004年8月に「NPO法人彦根景観フォーラム」が発足しました。以来、景観形成活動に取り組み今年で20年になります。

(彦根景観フォーラム名誉理事 山崎一真)



ぶらっと彦根 (2004)



足軽屋敷特別公開 (2023)

花しょうぶ通り 街の駅、重伝建、小江戸彦根 時の回廊へ

城下町彦根の中心部に位置する花しょうぶ通り商店街は200年を超える伝統的商店もあり城下町特有の業種や町家もいまだ多く残っています。商業エリアの市郊外へ移動するドーナツ現象により取り残された商店街となっていました。1996年より若手店主を中心とした組織改変を機に活発な活動が出来る組織形態となりました。一年間の県立大学とのフィールドワークによる城下町ルネサンスの再生振興を目指す街づくり構想として「ふるくてもあたらしい心を持つやさしい街づくり」「ふるあたらしい街 花しょうぶ通り」としました。

1998年中心市街地活性化法によるファサード整備事業の完成後、実践的なコーディネート組織「NPO法人彦根景観フォーラム」との協業による談話室「それぞれの彦根物語」から地域のエキスパートが参画する「LLP ひこね街の駅」が組織されました。まちのプラットフォーム「LLP 街の駅構想」や市内3大学の学生と共に開催する「アートフェスタ勝負市」など数々の自主的・自発的な商店街及び地域振興の促進を遂行しています。

2013年地域住民の手による歴史的景観を守り伝える組織として「河原町芹町美しいまちづくり委員会」を結成し2016年9月25日に念願の伝統的建造物群保存地区に選定を受けました。2024年末には新規及び修復修景建造物は延べ16件になります。今後は街路修景と共に地域ブランディングの確立に取り組みJR彦根駅→彦根城→キャッスルロード→足軽組屋敷→河原町芹町伝統的建造物群保存地区→芹川駅の「小江戸彦根 時の回廊」の一翼を担いたいと思います。

(LLPひこね街の駅 駅長 小杉共弘)



アートフェスタ勝負市 (2024)



ひこね街の駅寺子屋力石 (2005)



辻番所オープニング (2014)



それぞれの彦根物語 (2007)



野鳥の森の植物観察会 (2009)



ぼんがら餅づくり (2009)



さとの宿 朝食 (2024)

足軽組屋敷の保存から 文化遺産を活かしたまちづくりへ

2007年、芹橋地区に残る「足軽組屋敷・辻番所」の売却の意向が伝わりました。その後市民による買取を目指した「トラスト運動」がきっかけで、彦根市による買取と文化財指定、更に解体修理が実現しました。住民にも行政にも、足軽組屋敷のまちを大事に活かしていこう・・・という機運が生まれた瞬間でした。

江戸時代からの町割りがそのまま残り、足軽組屋敷も現存する地域ですが、高齢化が進み空き家が増え、防災などの課題も多く抱えています。この歴史的な文化遺産を活かしつつ、安心して気持ちよく暮らせる魅力的なまちを目指し、2017年、「芹橋二丁目まちづくり憲章」が制定されました。

「まちづくり憲章」をもとに、防災や様々なコミュニティ活動、空家問題の取り組みが始まりました。移住希望者を迎入れる体制も整えられ、まちの魅力を感じて移り住む人も増えてきています。また、防災に関しての地元の熱心な取り組みが認められ、辻番所横の空き地を防災広場として整備する工事が彦根市によって進められています。また、2023年には、「まちなみデザインガイド」を作成しました。心地よいまち並みを目指して、家を建てたり改修したりする場合のヒントとなるような冊子となっています。

最近では、テレビやラジオ、新聞などに取り上げられることが増え、「イケてるまち」の一つになってきていると感じます。

(彦根景観フォーラム 笠原啓史)

一圓屋敷は 「里の駅」から「さと宿」へ

一圓屋敷のある滋賀県犬上郡多賀町は、彦根市の東側、鈴鹿山系の北端に位置し、人口は約7,000人の里山です。2008年に一圓家からNPOに屋敷が譲渡されました。屋敷は、江戸後期の庄屋屋敷の趣を残し、近江の農家の古い建築様式がわかる建物であることから、多賀町のまちづくりに活用できないかということで、模索が始まりました。

はじめの10年は、多賀町有志の「多賀クラブ」によって運営しました。一ヶ月に一度、屋敷を公開する「野菜市と集い」をしたり、「野鳥の森の植物観察会」や農家レストランを開催しました。この間に、一圓屋敷は国の登録有形文化財となり、農家レストランは「地産地消のメニューコンテスト」で農林水産大臣賞を受賞しました。本当に楽しく幸せな日々でした。

しかし、築160年の建物は、次々といろいろな所が壊れることが続き、小さな修理では限界がきてしまいました。大規模な修理が必要となったことから、「合同会社さと多賀」を設立し、総務省の支援を受け、改修工事を行い、2019年に宿泊施設として再オープンしました。民泊としての運営と「里山自転車さんぽ」というポタリング事業の2本立てでの再出発です。

「里山にたずむ庄屋屋敷でゆっくりした時間とおいしい朝食を」をうたい文句に今日もがんばっています。

(多賀さと宿の一圓屋敷マネージャー 江竜美子)



多賀さと宿一圓屋敷 (2019)



デザインガイドづくり
ワークショップ (2023)



辻番所サロン (2008)



旧彦根藩足軽組屋敷
バーチャル資料館 (2022)